

キットを使いしんじて楽しむ

みんなで考える、 未来のまち

私たちが住んでいるさいたま市って、どんなまち？ さいたま市は、これからどんなまちになるの？ 公園がたくさんあるまち？ 交通が便利なまち？

創刊20号を迎えるkorekaraでは、さいたま市のまちづくりについて、未来を担う子どもたちと一緒に考えてみたいと思います、ワークショップ

ブを企画。「まちづくりキット」を使い、自分たちが「ずっと住み続けたいまち」「訪れたいまち」さいたま市の未来を描いてもらいました。



チーム「ka」

参加していただいたのは…

埼玉大学教育学部附属小学校 6年生 18名

秋田さん、有本(爽)さん、有本(楓)さん、石黒さん、井上さん、片野さん、澤本さん、平さん、田中さん、鳥山さん、早川さん、牧野さん、町田さん、松本さん、森さん、山崎さん、吉田さん、吉武さん (50音順)

チーム「ra」

埼玉大学 学生4名

環境共生学科4年生 王さん
環境共生学科4年生 倉片さん
大学院2年生 金野さん
大学院2年生 中川さん

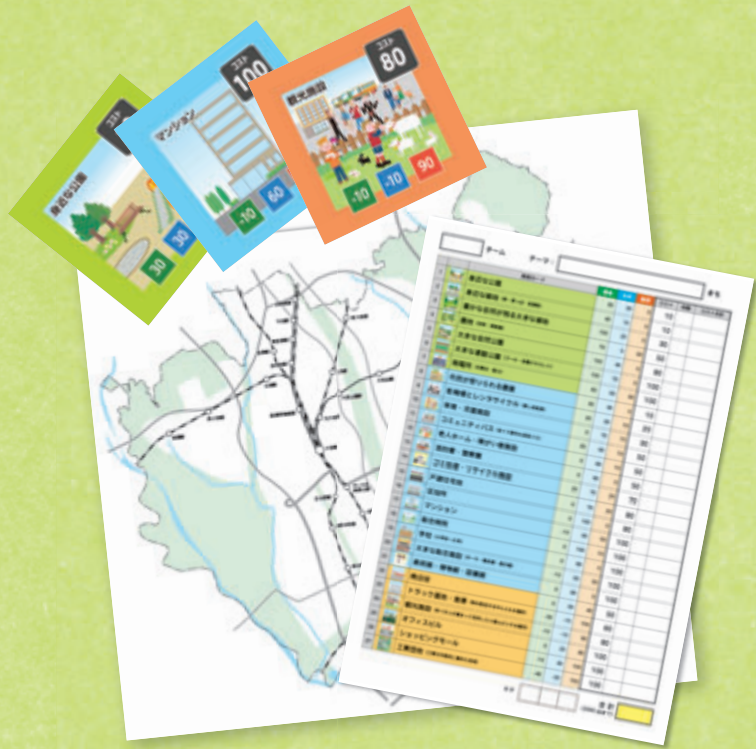
チーム「re」

チーム「ka」

限られたコストで自由にまちを描く。子どもたちがつくった「住み続けたいまち」は、次ページで発表！

「まちづくりワークショップ」のやり方は？

ワークショップでは、子どもたちが4〜5人ごとにチームをつくり、それぞれが「住み続けたい」と思うまちを大学生にサポートしてもらいながら、ディスカッション。まずは、どのようなまちに住み続けたいのか、テーマを決めて、そのテーマに沿ったまちを地図上で表現してもらいます。作業が始まると、「遊園地をつくらう！」「病院も必要だね」と活発に意見が飛び交い、施設カードを次々に配置。さあ、どのようなまちができたのでしょうか。



「まちづくりキット」を使ったワークショップの進め方

進め方は、2ステップ！

- 1 まちのテーマを決めよう
まちのテーマを1つ決めます。「お年寄りに優しいまち」「スポーツが盛んなまち」など、テーマは自由です。
- 2 地図に施設カードを置いて、テーマに沿ったまちをつくらう
さいたま市の地図に色分けされたカードを置いて、皆で決めたテーマに合ったまちをつくりまします。なぜそのカードを選び、なぜその場所に配置するのか、チームのメンバーと相談しながら進めていきます。

施設に使えるコストには、限りがある！
自分たちだけのスペシャル施設をつくることもできる！

まちづくりには、限られた予算があります。それぞれの施設カードの右上についている数字は、施設をつくるためにかかる金額「コストポイント」です。合計2000ポイントを上限としてカードを地図に置くことができます。コスト計算表を使って計算しながら、施設カードを配置していきます。施設カードは、同じものを複数枚使用しても構いません。

3つの視点のバランスが大事！
施設カードは、まちづくりに大事な「環境(緑色)」「生活(水色)」「経済(オレンジ)」の3つの視点を表しており、それぞれのポイントを持っています。このポイントについては、「コストポイント」とは違い、計算しながら地図に置く必要はありませんが、バランスよく配置されていると理想的なまちになります。

鉄道や道路が増やせる！
地図には既存の鉄道や道路が配置されていますが、必要に応じて自由に描き加えることができます。

監修 埼玉大学大学院 理工学研究科准教授 深堀清隆先生



チーム「ko」

病院はコストが高いけれど、必要。

子どもたちの「住み続けたいまち」が完成 こんなまちが、できました!

子どもたちが自由に描いた「住み続けたいまち」には、子どもたちならではの新鮮な発想がたくさん詰まっていた。監修をお願いした深堀先生に、それぞれのチームにコメントをいただきました。

※それぞれのチームで地図とスペシャル施設を作成しましたが、今回はチーム「ra」を代表として掲載しています。

テーマ **住みやすく楽しいまち**

スペシャル施設 「緑の遊園地」

- ・大宮駅は鉄道が集中して交通が便利だが、浦和駅東側も便利になるように鉄道を描き加えた。
- ・さいたま市には遊ぶところが少ないので、たくさん木を植えて遊園地をつかった。

緑の役割分担が良いですね。スペシャル施設のほか、郊外では自然を残す大きな緑地、中心部には身近な公園や緑地を使い分けています。



交通が不便なところには、線路を伸ばした。

自然公園と住宅、ショッピングモールと緑地など、緑と人工のものをセットにすると、まちが汚れない。

老人ホームは、自分たちが年老ったときのために必要の緑の多いところにつくりたい!

テーマ **自然と伝統の残る住みやすいまち**

スペシャル施設 「さいたまタウン(大型商業施設)」

- ・さいたま市にあるサッカーや鉄道、うなぎなどの伝統を守り、見沼んぼにある自然を残しながら、大宮駅を囲むように大型商業施設を配置した。
- ・コミュニティバスを主体として、病院や学校などの施設をつないだ。

チーム「re」

単純に観光、商業、文化施設ということではなく、その場所の伝統や文化を考慮して、地域の個性を引き出していますね。



テーマ

緑が多くて 落ちついたまち

S スペシャル施設

「ハイジの森」



チーム「ra」

緑と施設をセットで置くというのは、自然と開発のバランスを考えていて、まちづくりでは大切な考え方です。



「ハイジの森」は、水と緑のテーマパークのカフェやアトラクションがいっぱい。

人が住んでいるところの近くには、病院や消防署を配置した。

テーマ **安全で活気のあるまち**

スペシャル施設 「美園空港・岩槻ランド」

- ・安全面を考えて、駅の近くには消防署や病院を。中心部を離れた人口の少ないところに発電所や工業用地、トラック基地を配置。コミュニティバスで、ショッピングモールと観光施設をつないだ。
- ・スペシャル施設は、観光名所にもなる空港と、自然がたくさんあるテーマパーク。

広い緑地空間の見沼んぼ周辺に、商業、観光施設、農園を置き、コミュニティバス、レンタサイクルで結んでいます。地域の魅力的な資源を上手に使っていますね。



チーム「ka」

太陽光発電や学校をもっと入れたかったけど、コストが高かった。

子どもたちは、皆で話し合いながら1つのまちをつくってみて、何に気づき、どのようなことを感じたのでしょうか。サポート役として参加した大学生にも、感想を聞いてみました。

良いまちに対する解釈は、大人も子どもも同じ。大人と子どもが対等に対話することが大切。

中心を大宮と浦和の2つにとり、他の拠点ともつながりながらバランスよく発展させようという発想は、さいたま市が目指す「都市計画マスタープラン」(※)と近いものがあります。良いまちに対する解釈は、大人も子どもも共通していることに気づきました。

これからのまちは、まさに子どもにとっての未来です。新鮮な子どもの視点を聞き、小さいころからまちづくりの意識を育て、大人と子どもが対等に対話することが大切。このワークショップは、住民参加の一つの答えだと思いました。

埼玉大学 4年生
王 誠凱さん



- ・コストを考えるとこが、現実的でおもしろかった。
- ・身近な公園は、コストが低い割には皆が楽しめるので、自分の家の近くにも欲しい。
- ・実際にまちをつくるのは難しい。でも、こんなまちがあったらいいなと思った。

スピード感のあるワークショップ。カードにはない独創的な発想に驚く。

思っていた以上に意見が出て、まとめることが大変な、スピード感のあるワークショップでした。スペシャル施設にした商業施設は、さいたま市の伝統を反映させた、スカイツリーのような観光名所として考えていて新鮮でした。

公園に川を入れたり、さいたま市の中に新たにまちを描いたり、体の不自由な人に便利なユニバーサルデザインに配慮するなど、カードにはない独創的な発想に驚きました。皆の想いが詰まった、個性豊かなまちになったと思います。

埼玉大学 4年生
倉片 くるみさん



- ・ゲーム感覚で、自分たちでまちづくりを体験できて楽しかった。
- ・皆の案を聞いて、自分の考えも広げることができた。
- ・やってみることで、今のさいたま市が必要としているものが見えてきた。自然を増やしていきたい。

「警察は置かなくても安全なまちに」子どもたちの意見を聞き、初心に戻る。

子どもたちの知識が豊富で、交通の立地や周辺の環境、首都圏としてまちづくりをとらえたバランスなど、現実的に即した考え方に驚きました。

また、「安全」がテーマだったことから、私は当然警察は配置するものと思っていたところ、「警察は置かなくても、安全なまちにしたい」という意見が出て、ハッとさせられました。

今までは、生活に必要な機能を中心部に集める「コンパクトシティ」の知識に基づいていましたが、「見沼や岩槻に何も無いのは寂しい」という意見を聞き、初心に戻りました。

埼玉大学 大学院2年生
中川 明英さん



- ・地図をつくることで、さいたま市を実感することができた。
- ・配置は、鉄道や道路、施設などとの関連を考えると難しかった。
- ・コストに配慮するのが大変だった。ショッピングモールは、コストが高いので1つにした。

視点はまっさらで、発想が自由。子どもは、けっこう考えています。

一見自由に意見を出しているように見えるけれど、子どもはけっこう考えています。たとえば、病院はどこにあったらいいのか、緑と住居をセットにした方が気持ち良いなど、身近な生活を意識しながら、バランスの良い、工夫のあるまちになったと思います。

子どもの視点はまっさらで、発想が自由。私たちの研究はそれぞれが専門的なものなので、子どもたちの考えに触れることで視野が広がり、まちづくり全体について考える良い機会になりました。

埼玉大学 大学院2年生
金野 大吾さん



- ・自分が思ったとおり、好きなまちをつくれるところがおもしろい。
- ・ポイント制限はあるが、皆と相談することで、夢が実現しやすくなった。
- ・緑とのバランスを考えるのが楽しかった。

誰でも参加できるまちづくり。ユニークな施設でオリジナルの特長を。



埼玉大学大学院
理工学研究科 准教授
深堀 清隆先生

「独自の文化をテーマに市民と行政がともに役割分担」まちが生き残っていくためには、愛着や誇りが持てる、独自の文化が大切です。すでにコストをかけて一気にリニューアルする開発型のまちづくりの時代が終わわり、地域にもとある文化や歴史、自然環境などを活かして生活環境を維持していく時代になりました。まちづくりという、「都市計画」のように高度に専門的な技術というイメージがありますが、こういう時代だからこそ、行政や専門家の技術や知識で解決できないところ、場所づくりにおいて地域の個性を考えると、市民が参加して協働する意義があるのです。

独自の文化をテーマに市民と行政がともに役割分担

「まちづくりキット」を実際にやってみるときには、施設をただ置くのではなく、その施設にある、たとえば動物と触れ合える病院、アートのまちを走る素敵なデザインのコミュニティバスといった、ユニークな特長を考えてみると良いと思います。公園、学校、オフィスビルという施設は一律ではなく、全部が違って良い、オリジナルの施設なのです。それが、より個性のあるまちづくりにつながっていくと思います。

オリジナルの特長をもった施設でより個性のあるまちづくりを



「まちづくりキット」は、さいたま市のホームページからダウンロードすることができます。ダウンロードできる「まちづくりキット」はポケット版で、ワークショップで実際に使ったキットより小さいサイズになります。ご家庭でキットをプリントアウトして、ぜひ体験してみてください。また、ワークショップを体験したいという団体の皆さんは、都市総務課までお問い合わせください。

キットを使って、まちづくりをやってみよう！

さいたま市 korekara 検索
都市局まちづくり広報誌「korekara」WEBサイト▶
「korekara」各号の紹介▶各号の個別ページ▶
まちづくり広報誌「korekara」第20号



※「さいたま市都市計画マスタープラン」とは……さいたま市の都市計画に関する基本的な方針。平成17年に策定したプランを平成26年4月に改定しました。